

上下二連の狩猟用散弾銃で高評価

—森山翔太生産技術課・設備設計係長に聞く—

9割以上がアメリカを中心とする海外ユーザー向け



精度を要する加工には、
スーパーG1チャックが活躍する



人の作業を軽減していくのも
機械加工の大きな役割だと言ふ

上下二連というタイプの狩猟用散弾銃の製作をメインに手がけるミロク製作所を訪問した。

「1960年にアメリカのブローニング社と提携しスタートしたOEM生産部門を集約した新工場が主力となるため輸出がほとんど。当社のブランドを冠した国内向けもあるが、9割以上がアメリカを中心とする海外ユーザー向け」と解説してくれたのは、今回現場を案内してくれた生産技術課の森山係長だ。

銃の製作では、木工、金属双方の加工があるが、ミロク製作所では銃身の加工と銃身に付属するバレル部品(シャケットプロック)とフレームという、金属製品でもガタ

加工を手掛けている。木工部はグループ企業が担当している。

2020年には機械加工部門を集約した新工場

が竣工した。そこで、FMSの老朽化に伴い、導入した松浦機械のAM72.35Vで、ビビリの抑制が課題に挙がっていた。

「銃身とフレームの合わせ面は、100分の1ミリの隙間も許されないと言

う。生産技術の考え方のポイントは、精度は満足度で出し、手仕上げの負担を軽減する

こと。つまり、機械加工で集約した新工場建設に着手する計画。生産キャパの拡大ばかりか自動化、無人化の対応強化が狙いでいる。

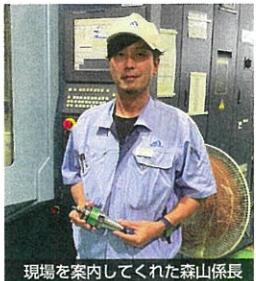
バレルやフレームは、形状が複雑で、数量は詳らかにはできないものの、量産の効率化は不可避であ

るため、活用する治具も自ずと複雑になってくる。ユキワ精工のツーリングは、プラザー工業のタジンが横形マニニングセンタとスッカーカーレーンを併せ

て、「刃物寿命も1・5倍に伸びた」

加工のポイントは銃の耐久性にも通じるバレルとフレームの「ゼロ嵌合」

「生産技術の基本的な考え方は、精度は極力、機械加工で出していく」



現場を案内してくれた森山係長

ミロク製作所（高知県・南国市）訪問 —ユキワ精工ユーザーを歩く—

解消したグリーンG1チャック

刃物寿命も
1・5倍に伸びた

るため、活用する治具も自ずと複雑になってくる。存在となった。念のため

ユキワ精工のツーリングが評価対象に挙げられたのが、横形マニニングセンタと

スッカーカーレーンを併せてみたが、今まで使ったことがない」と森山係長は笑みをほほえます。

スーパーG1チャックが評価について、「バレルやフレームは複雑形状部品ゆ

り、刃物寿命も大きい。振れ

精度は3ミクロン以内

能」「ロングダイスでもど

らない。エンドミル、ドリル

それぞれの加工でも、1本でこなせる」とまとめました。

課題解決と言う点で、

スルーというクーラントの

出し方でもコレットひとつ

付き替えるだけに対応可

能」「ロングダイスでもど

らない。エンドミル、ドリル

それぞれの加工でも、1本でこなせる」とまとめました。

森山係長は2008年

に入社。切削加工分野では

10年のキャリアを積む。

「独学で、機械加工技

能士マニニングセンタ作

業」1級を取得した。コロ

ナホによろ、様々な制約

があるからこそ、逆に知識

や技術課題を実行し

う手段には食欲があり

た」。

自ずと複雑になってくる。存在となった。念のため

ユキワ精工のツーリングが評価対象に挙げられたのが、横形マニニングセンタと

スッカーカーレーンを併せてみたが、今まで使ったこ

とがない」と森山係長は笑みをほほえます。

スーパーG1チャックが評価について、「バレルやフレームは複雑形状部品ゆ

り、刃物寿命も大きい。振れ

精度は3ミクロン以内

能」「ロングダイスでもど

らない。エンドミル、ドリル

厳しい2023年の稼働率は、10万発

厳しい2023年の稼働率は、10万発

厳しい2023年の稼働率は、10万発

スーパーG1チャック 高精度ツーリングシステム



ユキワ精工株式会社

スーパーG1チャック

検索

<http://www.yukiwa.co.jp/>



ユキワだけ精度を 保証!

して い ま す。

精度をとことん
突き詰めると、
コレット式に辿り着く

